

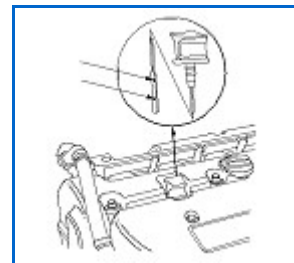
エンジン オイルの点検、交換

注意

点検はエンジン始動前か、エンジンを止めてから少なくとも 3 分以上たってから行うこと。

点検

1. エンジンを停止させた状態で水平の場所で行う。
2. レベル ゲージを抜いて、汚れの点検およびオイル量が上限(A)から下限(B)の間にあることを点検する。
* 一度ウエスなどでふいた後、ゲージを差し込み点検する。



注意

銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質のオイルを使用しないこと。変質して故障の原因になることがある。

交換

注意

オイル交換後の廃油は、法令、条例などで定められた方法により処理すること。

1. ラジエータ ファンが2回作動するまで、エンジンを暖機する。暖機後エンジンを停止する。
2. ドレン ボルト(A)をゆるめ、エンジン オイルを抜く。

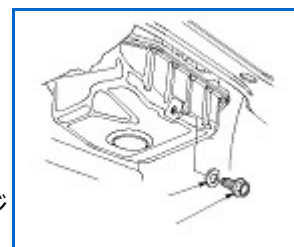
注意

エンジンが熱いうちにドレン ボルトをゆるめると、油温が高く火傷しやすいので注意する。

3. 新しいワッシャ(B)を使用して、ドレン ボルトを締付ける。

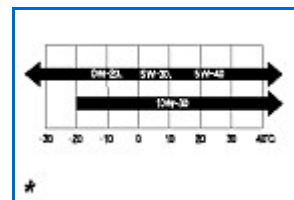
注意

ドレン ボルトの締め過ぎに注意する。



4. 推奨オイルを入れる。

推奨交換時期	15,000kmまたは1年ごとのどちらか早い方
	<p>ホンダ純正オイル(4サイクル四輪車用)</p> <p>ウルトラLEO SJ (API SJ/GF-2級 SAE0W-20)</p> <p>ウルトラLTD XJ (API SJ/GF-2級 SAE5W-30)</p> <p>ウルトラGOLD XJ (API SJ/GF-2級 SAE5W-40)</p> <p>ウルトラSUPER MILD SJ (API SJ/GF-2級 SAE10W-30)</p> <p>ウルトラSG(SG級 SAE10W-30)</p> <p>またはAPI SG級以上か、オイル缶にAPI CERTIFICATION マークの入ったエンジン オイル</p>



- 次の条件(シビア コンディション)ではオイルの劣化が早まるので、7,500kmまたは6ヵ月ごとのどちらか早い方で交換する。
 - 未舗装路での頻繁な走行
 - 外気温が氷点下の続くところでの使用
 - 短距離走行の繰り返し
 - アイドリングや低速走行での頻繁な使用
 - けん引車としての使用

規定量 [L]	分解組立時	5.3
	オイルのみ交換時	4.0
	オイル、フィルタ同時交換時	4.2

- 気温に応じたエンジン オイルを下表にもとずき次回のオイル交換までを考慮して使用する。

5. エンジン オイルを注入後、エンジンを3分間以上運転し、オイル漏れがないことを点検する。